

観光情報システム連携技術調査専門委員会 設置趣意書

情報システム技術委員会

1. 目的

観光情報システムは、観光業者における各種業務の支援（例えば予約管理システム等）と、旅行者による観光情報の収集支援（例えば口コミサイト等）に大別され、モバイルコンピューティング、クラウドコンピューティング、ビッグデータ処理等の技術によって発展を続けてきた。これらの観光情報システムを連携させて利用することで、観光業者は新たな観光情報サービスを創出し、旅行者は観光によって得られる価値を高めようとしている。観光情報システムが劇的に拡大・進展してきた昨今において、様々な観光情報システムを連携する技術が求められている。そこで本調査専門委員会では、観光情報システム連携技術を調査し、連携による新たな観光情報システムの可能性や、システム実現のための課題について議論することを目的とする。

2. 背景および内外機関における調査活動

日本政府は 2014 年の観光立国推進閣僚会議において、訪日観光者を 2020 年までに 2000 万人とする目標を掲げ、ビザ発給の緩和といった物理的な施策だけではなく、適切な観光情報の提供といった観光情報システムの重要性を述べており、観光情報システムを調査対象とする意義は大きい。

観光情報システムに関して、国内では、北海道を中心に観光情報学会が 2003 年に設立され、技術的な側面のみならず行政や社会の問題を含んだ調査研究活動を行っている。また国外においても、EU における ETFI (European Tourism Futures Institute) 等の研究機関が設立されている。これらの活動は、新しいシステムの提案、特定のシステムの利用調査、ケーススタディおよび文化的社会的な側面での研究に関わるものが多く、観光情報システムが体系的に調査されているわけではない。このような問題意識から、情報システム技術委員会では、観光情報システム技術調査専門委員会（平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月）において観光情報システムの全般的な動向を調査し、観光情報システム構築・活用技術調査専門委員会（平成 25 年 4 月～平成 27 年 3 月）において個々の観光情報システムを構築・活用するための技術を調査した。これまでの調査結果から、様々な観光情報システムを連携させて利用する技術について、更なる調査が必要であるとの結論に至った。

またシステム連携技術については、SOAP や REST 等が、Web サービスの連携に一般的に利用されている。一方で、観光情報システムにおける、同種の技術に関する利用状況や今後の展開について、十分な調査はなされておらず、新たな観光情報システムの連携を考えるにあたり、調査が必要であると考えられる。

3. 調査検討事項

- (1) 観光情報システム連携に関する事例の調査
- (2) 観光情報システム連携のモデル化
- (3) 観光情報システム連携技術の動向調査と、一般的なシステム連携技術との比較評価
- (4) 観光情報システム連携技術の体系化と課題分析

4. 予想される効果

(1) 観光情報システム連携に関する事例の調査では、システムがネットワークで連携している場合だけでなく、旅行者などのエンドユーザが複数のシステムを同時に利用する場合についても調査し、観

光情報システム連携に係る全体像を把握する。これにもとづいて、(2) 観光情報システム連携のモデル化を行い、連携技術や課題を議論するための基盤を用意する。そして、(3) 観光情報システム連携技術の動向調査と、一般的なシステム連携技術との比較評価により、観光情報システムの連携の特徴を明らかにする。最後に、(4) 観光情報システム連携技術の体系化と課題分析を行うことにより、今後の観光情報システム連携技術の方向性を示す。

5. 調査期間

平成27年(2015年)4月～平成29年(2017年)3月

6. 活動予定

委員会 4回/年程度 幹事会 1回/年

7. 報告形態

シンポジウム(部門大会など)を開催し、報告する。